

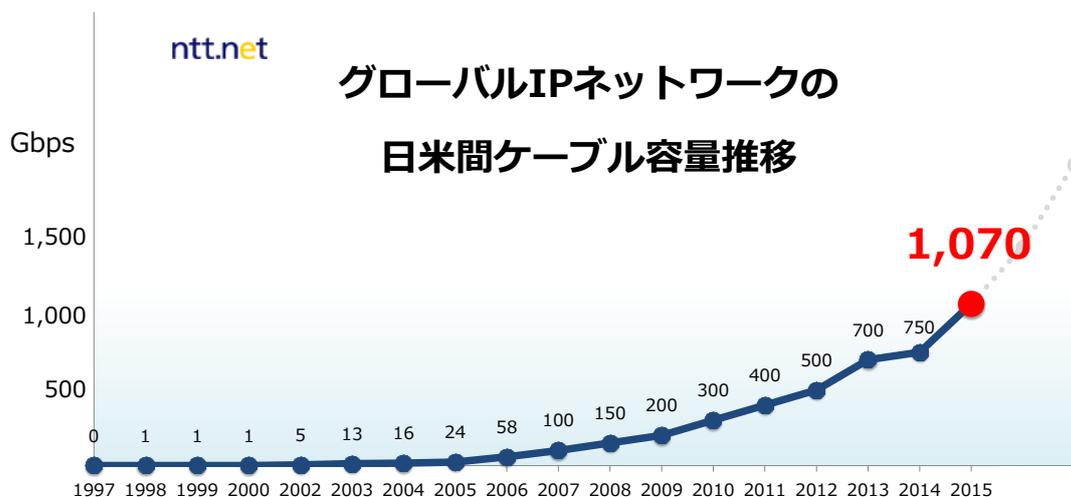
2015年9月24日

国際インターネット接続サービス「グローバルIPネットワーク」の 日米間通信容量が世界で初めて 1Tbps を突破

NTT コミュニケーションズ(略称：NTT Com)の国際インターネット接続サービス「グローバルIPネットワーク」において、2015年9月、日米間回線の通信容量が1Tbps (毎秒1テラビット、1テラ=1兆)*¹を超えました。

インターネットを流れるデータ量(トラフィック)は、今後も急速に増加し続ける傾向にあり、NTT Com は、2年後には現在の2倍程度の容量が必要になると予想しています。

NTT Com は今後も日々のトラフィック動向を注視し、タイムリーに回線容量の増強を図っていきます。また、「グローバルTier1キャリア」*²として、世界最高水準の品質保証、24時間365日ノンストップのグローバルなサポート体制によって、高品質なIPネットワークサービスを提供し続けることができるよう努めていきます。



1. 「グローバルIPネットワーク」の特長

NTT Com の「グローバルIPネットワーク」は、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアと世界主要各国に展開する高速・大容量のIP通信サービスです。日米間回線の容量は、ISPの中でも最大級を誇り、このたび世界で初めて1Tbpsを超えました。「グローバルIPネットワーク」は、米国Dyn社のリサーチ(Dyn Research)によると、アジアでは1位、グローバルで2位の市場シェアと位置付けられています。

また、アジア・オセアニア域内のバックボーン総容量については、日米間を上回る1.5Tbpsを突破しています。

2. 回線容量拡大の背景とそれを支える技術

昨今のスマートフォン・タブレット型端末の普及や、アクセス回線のブロードバンド化により、音楽・動画配信、SNS・ミニブログ、クラウドコンピューティングなどのインターネットサービスの利用者は世界的に急増しています。また、定額制で視聴し放題の音楽・動画配信や、ハイレゾ、4Kなどのデータ量が大きなコンテンツも普及の兆しを見せており、今後もこの拡大基調は続くものと予想されています。

このような市場の伸びに迅速かつ効率的に対応するため、NTT Com は、積極的に新たな技術を開発・採用しています。バックボーンへの 100 ギガビットイーサネット技術の導入はその 1 つであり、既にアメリカ、ヨーロッパ、日本へと展開しています。今回の日米間の通信容量 1Tbps 超拡大においても、日米間海底ケーブル「PC-1」の 100Gbps デジタルコヒーレントを用いた光伝送システムを活用しました。

NTT Com は、引き続き高速かつ安定的なデータ配信を実現する環境作りに努めるとともに、世界のインターネット環境発展、ICT 化推進に貢献していきます。

*1: 1 秒間あたり約 80 本の HD 映画に相当するデータ量を配信できる。

*2: インターネットの品質を上流のプロバイダに頼ることなく、自らをコントロールできる世界規模の広帯域 IP バックボーンを保有する ISP グループのことで、世界でも数社のみ。アジアでは NTT Com が唯一の Tier 1 事業者。